

# 今年も白いチヨウが……

## 参列した顕彰会の会員ら感激

今年で生誕127年となる千代は28年前の6月10日、98歳で天寿を全うした。……

「薄桜忌」は千代の文学的業績を称え、顕彰会が毎年行っているもので島津会長(86)らが参列した。

午前10時から教蓮寺本堂で法要を営んだ。藤谷住職は法話の中で「宇野先生が亡くなったのは平成8年。再来年は没後30年で仏事で言えば33回忌。きょう皆さんはお寺にお参りにきた。先生が浄土に行ったままではないということ。仏になつて、よう参つてきてくれたねと褒めてくれて」と参列を喜んだ。

続いて墓前に移動して手を合わせた。薄桜忌には毎年のように白いモンシロチヨウが境内にひらひらと姿を見せ、参列者は「千代先生の化身かも」と話している。今年もなかなか姿を見せなかったが、藤谷光信前住職(87)が墓前で千代の思い出を話さうと、本堂横の墓所方面から現れ、参列者を歓迎するように横切り、千代の生家(川西)に向かつて姿を消した。

参列者は、「本当に不思議なことですね。千代先生の話をしている最中に姿を見せてくれました。法要の様子や参列者を見て、安心して生家に行ったのだと思う」と話していた。

藤谷前住職は「宇野さんの父母のお墓もここ(教蓮寺)にあり、宇野さんもよくお参りに来ていた。宇野さんは仏教にも大変詳しくて法名も生前、自分で考えられていた」と語った。

藤谷前住職が東京で千代の弟に会った折、岩国の生家を訪りたいという話を聞いたという。そこで「地元の人たちが宇野さんを大切に思っているの、生家は売らない方がいいという話を伝えたところ、(千代が)ここに来られた。そのとき、境内に植えてあったモミジの木を見て元気が出たと言つて生家を改修し、庭をせんぶモミジの木にした。千代さんは桜が好きだったが、庭だけはモミジにした。素晴らしい美的な感覚があったと皆さん、よく言われるが、そういういきさつもあつた」と明かした。

法要を終えて島津会長は「28年。そんなに経ったかなと思う。年月が経ち、向こう(浄土)に行かれたのではなく、毎年こうしてお

会います度、近づいている……

焼香する島津会長

【宇野千代】小説家、随筆家、編集者や着物デザイナーとして活躍した。代表作に「おはん」があり、舞台や映画の原作となつた。自伝的エッセイをまとめた「生きて行く私」はテレビドラマ化された。



焼香する島津会長

焼香する島津会長

焼香する島津会長

焼香する島津会長

焼香する島津会長